

第9回京田辺市史編さん委員会（会議録要旨）

日 時：令和7年10月16日（木） 10時30分～11時30分

場 所：京田辺市役所 305 会議室

出席者：〈委 員〉向井委員長、井上副委員長、菱田委員（※）、東委員（※）、岸委員（※）、
上杉委員（※）、林委員、木村委員

※…遠隔での参加

〈事務局〉藤井副部長、坂本室長、大屋担当係長、松本主任、
坂本会計年度任用職員

1. 開会

2. 議事

1) 令和6年度の事業実績について【事務局から説明】

（特に発言はなし）

2) 令和7年度の事業について【事務局から説明】

- ・刊行済み市史の市民への普及状況が気になる。市史の販売部数を教えてほしい。また、刊行済みの部会は解散することになるのか。（上杉委員）
- ・令和7年10月では第3巻53冊、第4巻56冊、第5巻65冊、計174冊販売している。また部会を解散する建付けではないため、任期が切れると再任しない方向で考えている。（市史編さん室）
- ・売上の件は承知した。今後販売について考える余地があると考えている。市史編さん終了後、市史編さん室の機能は残すのか。単に文化財担当課に合流するのではなく、次回の市史編さんのために公文書担当課に置くなどの工夫が必要。（上杉委員）
- ・市史編さん終了後は市史編さん室としては残らない。今後、どのように市史編さん室の機能を引き継ぐか検討していく。（市史編さん室）
- ・市史の販売数について市はどのような認識を持っているのか。販売促進を考える必要があるのではないか。また、市史編さん室の機能をどう引き継いでいくのかも考えないといけない。現在建設中の複合型施設内に博物館や資料館は設置しないのか。（井上副委員長）
- ・市の売上目標には到達してはいるが、まだ少ないと考えている。市内所在の書店での販売を行っているが、講座を通した普及活動などを強化し、販売促進を図っていきたい。市史編さん室の後継は今後の検討課題である。博物館・資料館は必要と考えているが、場所も含めて検討していく必要がある。（市史編さん室）
- ・市史に掲載する史料のうち、所有者のもとから流出した史料の取り扱いを教えてほしい。（井上副委員長）

- ・市内から流出した史料も調査対象としている。必要があれば、現所蔵者とも連絡を取り許可をいただいている。(市史編さん室)

3) 既刊について【事務局から説明】

- ・昨年度末に、3冊目となる『建造物・彫刻・絵画』を刊行した。既刊同様、1部3,000円で販売し、市役所や中央公民館の市史編さん室の他、住民センターや山城書店、アルプラザ京田辺店、観光協会でも販売を行っている。(市史編さん室)
- ・学術誌に市史の広告を出すことは考えているのか。京田辺市民だけではなく日本全国の方に普及してほしい。(井上副委員長)
- ・販売促進に課題があることは認識している。一方で企業版ふるさと納税の申し出もあり市民から市史を楽しみにしているといった声も聞いている。引き続き市のほうで工夫していきたい。(向井委員長)

4) 今後の刊行巻について【事務局から説明】

- ・今年度は、『京田辺市史資料編第2巻 中世・近世資料』の刊行を予定している。印刷業者は昨年度と同様に河北印刷となっており、現在校正のやりとりを行っている。また『京田辺市史資料編第1巻 考古・古代』の刊行も予定しており、ご執筆を進めていただいている。(市史編さん室)
- ・昨年度『京田辺市史本文編第3巻 近代・現代』を刊行する予定であったが、スケジュール遅れたことにより、小林部会長をはじめ近代・現代部会の各部会員の先生方と協議の上で年度中の刊行は困難と判断した。近代・現代部会の先生方のご負担を減らし、かつスケジュールを大きく損なわない方策として、『本文編第2巻 近世』との統合案を小林部会長に承諾いただいた。統合について中世・近世部会の東部会長はじめ各部会員に相談したところ問題ないとの意見をいただいたため、巻を統合する方向で編さんを進めている。なお統合巻の刊行は令和9年3月となる見込みである。統合後の『本文編第2巻 近世・近代・現代』は550ページを見込んでいる。『建造物・彫刻・絵画』より100ページ程度多くなる見込みのため、河北印刷に確認したところ、製本上の問題はないとの回答を得た。両部会より統合の承認は得ており、製本上の問題もないため、両巻を統合し、京田辺市史としては全7巻で進めていきたいと考えている。
- ・もし刊行が令和8年までに間に合わなかった場合は刊行しないのか。また、『本文編第2巻 近世・近代・現代』の550ページは分量が多いので、市民に手に取ってもらえるのか懸念している。(井上副委員長)
- ・刊行が令和8年度を超える場合は財政当局と交渉する。たしかに550ページとなると分量は多いが、刊行スケジュールに沿った刊行を目指したい。このため『本文編第2巻 近世・近代・現代』を分割し、冊数を増やすことは現実的ではないと考えている。市民に対しては、市のHPや広報誌を通して巻数の変更について周知を図っていく。当初のスケジュール通り刊行するよう印刷業者とも連絡を取り合い進めている。(市史編さん室)

- ・『資料編第2巻 中世・近世史料』で「戦国・織豊時代」という項目があるが、「織豊時代」という表記は適当か。(井上副委員長)
- ・「織豊時代」という表記は中世・近世部会の中世担当の部会員が提案したもの。「織豊時代」の表記で問題ないと考えている。(市史編さん室)
- ・今後 IT 市史や地域編を作成するにあたり、各部会は存続した方がよいのではないか。(東委員)
- ・IT 市史や地域編では、既存の市史を活用するもので、ゼロから執筆をするわけではない。IT 市史を作成する時や市史の内容を転載する時は、執筆を担当された先生方個別に相談させていただく。(市史編さん室)

3. その他

1) 市史編さん事業の情報発信について【事務局から説明】

- ・完成した市史から IT 市史の内容をピックアップするとしたら、誰が、どのような権限で運営するのか、組織の整備が必要になってくる。また WEB 上で公開するにあたっての計画や公開の仕方について考えていく必要がある。また IT 市史を作成してからも HP の更新やブラッシュアップをしていく必要がある。(上杉委員)
- ・IT 市史の具体的な内容については、今後、東委員 (IT 市史部会長) と具体的な議論をしていきたい。また、HP での公開については、既存の文化財部局のホームページとの調整も必要となる。(市史編さん室)
- ・市史編さん室を文化財部局に収斂させると IT 市史の取り扱いが難しくなるため、幅広く検討することが好ましい。また掲載内容についても、誰に対して、どのようなことを発信していくか IT 市史の役割を考えていく必要がある。(上杉委員)
- ・市史編さん事業が終了するまで部会を残すことはしないのか。(井上副委員長)
- ・検討する。(市史編さん室)

2) その他意見等

(特に発言はなし)

4. 閉会

- ・他に意見がないようなので、これで終了する。(向井委員長)